

特別企画

Special Edition

歯科医学におけるSDGsについて

The SDGs in Dentistry

企画要旨

今回は著名な3人の先生方に、歯科医学におけるSDGsについて関連する原稿の執筆をお願いしました。

日本歯科医学会会長の住友雅人先生は、当学会雑誌第51巻1号に冬期学会の講演内容として以下のような文章を寄せられている。

『今話題となっているSDGs（持続可能な開発目標）はその具体的な方向を示したものである。そのためには動植物などの生物、その生きる環境、あらゆる自然現象や宇宙空間を含めて考えることになる。地球の生き残りをかけての一大プロジェクトである。改めて歯科の世界を見てみると他分野との連携が進んではいるが、多様性をより進めるには360度を見渡す視野と理解、そして思いもよらない逆転の発想が必要ではないかとの想いに至っている。』

このような観点から、今回ご執筆を頂いた3人の先生方の内容は、基礎歯科医学に裏付けられた臨床歯科医学でのそれぞれの専門領域での今後の展開を言及して頂けたので興味深い内容となっています。

柴原孝彦先生には、口腔粘膜疾患の検診に従来侵襲型の検査からイルミスキャンを用いた非侵襲型の検診でたいおうする方法の紹介。佐藤貞雄先生には、ただ単に咀嚼機能回復だけを目的とした咬合治療だけでなく患者の持つ心理的・精神的要素を加味考慮した咬合治療の必要性を説いている。更に十河基文先生は、ご専門のインオーバーティブ・デンティストリー戦略の立場から、インプラントに着する前の新しい歯周病の検査3項目、オーラルフレイル機器のスマホ化、バイオ歯ブラシの開発について紹介して頂いている。

いずれも歯科医学におけるSDGsに結び付く、興味ある内容となっているので、ご一読頂けるとよろしいかと思います。

主な内容とポイント

■口腔粘膜検診の新たなモダリティー「蛍光観察」
柴原 孝彦

■歯科医療におけるSDGs 咀嚼器官の新たな機能と咬合医学
佐藤 貞雄

■日本の歯科近未来に夢見る「3つの妄想」
十河 基文